

## 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

### ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	一般社団法人観世会
公演団体名	一般社団法人観世会

内容
<p>ワークショップでは観世流能楽師4名が学校に伺い、児童・生徒の皆さんとともに実際に身体を使いながら、能楽の基礎を学んでいただきます。</p> <p><b>【1:礼儀作法】</b> ワークショップの冒頭にあたり、児童・生徒の皆さんに日本の礼儀作法の大切さを説明し、能楽師とともに姿勢を正し「宜しくお願ひします」というご挨拶をおこなっていただきます。また、終了時には「ありがとうございました」のご挨拶でワークショップを締めくくります。</p> <p><b>【2:能楽を知る】</b> 伝統芸能である能楽は、約700年の歴史があります。能楽の歴史、能と狂言の違い、舞台を鑑賞するときの約束事や能舞台の説明などを解説していきます。なお、ここでは映像を利用し、能楽の歴史などを視覚的にご覧いただきます。</p> <p><b>【3:所作を体験する】</b> 能楽には、独自の身体作法があります。ここでは能楽師の手本をもとに、「立ち方(カマエ)」、「歩き方(摺り足)」の体験を全員でおこなっていただきます。</p> <p><b>【4:謡の稽古】</b> 本公演でご覧いただく能「安達原」の謡の一節を、全員で声に出して稽古します。また、本公演ではお囃子と合わせて謡を体験していただきたく、当日までの学習用資料を配布いたします。</p> <p><b>【5:演技体験①/祈り】</b> 能「安達原」の後半の大きな見どころとして知られる、鬼と山伏が戦う「祈り」の場面の演技体験をおこないます。ワークショップでは代表者(10~20名)を選抜し、能楽師とともに舞台上がっていただきます。</p> <p><b>【6:演技体験②/能の感情表現と演技】</b> 能には、喜怒哀楽の感情をはじめとする様々な特徴的演技があります。能楽師が手本を示し、日本古来の感情表現や演技を参加する全員で体験していただきます。</p>

※ワークショップ・公演当日ともに、経験豊富な能楽師が全面的に指導・サポートいたします。

※ワークショップ体験中は、講師もマスクを着用の上、実施致します。

※ご要望により、質疑応答などもおこなうことができます。

※コロナ禍の状況に応じ、ワークショップ内容に変更させていただく場合もございます。

#### タイムスケジュール（標準）

所要時間：休憩含め 90 分程

※状況により内容変更・実施時間の変更可能

#### 派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

主指導者 1 名、補助者 3 名

#### 学校における事前指導

※ワークショップ体験中は、マスクを着用の上、ご参加ください。

演技体験①祈りの部分で舞台上に上がって頂く生徒(10~20名)を事前に決めていただくこと

※生徒数につきましては、状況・ご希望に沿って変更可能

演技体験②の部分で生徒さんに靴下を履いておいていただくこと

※靴下の指定はございません

# 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

## 本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	一般社団法人観世会
公演団体名	一般社団法人観世会

演目
<p><b>【全体】</b></p> <p>能楽とは「能」と「狂言」という、2つの伝統芸能の総称です。室町時代に大成して以来、能楽は約700年の歴史を歩んできました。現在でも、日本各地には大小さまざまな能楽堂があり、春から秋には薪能という上演形式により、野外でも能楽が楽しまれています。しかし、本事業が対象とする小中学生にとって、古典芸能としての能楽は馴染みがないものだと思います。本事業に参加するにあたり、弊会でもその点を十分に考慮し、一人一人が能楽に触れた経験がないことを前提として、本公演とワークショップを実施いたします。</p> <p>本公演は、全体を2部構成により進めて参ります。第1部では、先行して開催するワークショップの流れをもとに、能楽を楽しく体験していただくプログラムを実施いたします。第2部は、能楽界で活躍する第一線の能楽師による迫力ある公演をご覧いただき、ライブエンターテインメントとしての能楽の魅力をお伝えいたします。</p> <p><b>【イントロダクション／能楽を知る】</b></p> <p>能面・装束を目の前でご覧いただきながら、一つひとつの解説をおこないます。美しい彫りの施された迫力ある能面や、繊細な刺繍や文様が表現された豪華な衣装の数々について、実際の舞台で使用する本物をご紹介しますことで、伝統芸能としての能楽を視覚的に学んでいただきます。</p> <p><b>【謡のお稽古体験】</b></p> <p>謡のお稽古は、ワークショップと本公演の2度に亘っておこないます。ワークショップの際に謡の詞章を記した資料を配布し、謡い方についてコツをお伝えします。本公演では、復習を兼ねてもう一度練習し、そのあとに続くお囃子体験の際に、総仕上げとしてブクの演奏に合わせて謡っていただきます。独特のリズムと日本の古語の美しさをいっしょになって体験する時間です。</p> <p><b>【お囃子の紹介・実演デモンストレーション・エア楽器体験】</b></p> <p>能楽は演技を担当する能楽師とともに、演奏を担当する囃子方とよばれる能楽師が舞台上に上がり、総合的に物語を展開していきます。ここでは、笛・小鼓・大鼓・太鼓の4つの楽器の特徴、音色などを実際の演奏を交えながら解説いたします。和楽器の奏でる心地よい音色を全身で感じ取っていただき、参加する皆さんにはその場で「エア楽器体験」として各楽器の使い方を仕草で真似ることで体験していただきます。</p>

### 【能と狂言の演技体験】

「能」と「狂言」はどちらも能舞台上で演じられますが、その表現方法や物語には大きな違いがあります。同じ人間の喜怒哀楽を演じてはいますが、能は抽象的に厳かに、狂言は声高らかに賑やかに表現します。ここでは、能と狂言の演技法を比較することで、ワークショップでも一部体験する演技体験を更に深めていきます。

### 【演目解説】

いよいよ実際の公演に向けての詳しい解説をおこなっていきます。事前に物語のあらすじをまとめた資料は配布いたしますが、ここではスクリーンを使用し、実際の演能写真を場面ごとにご覧いただき、これから上演する物語のみどころをわかりやすくお話致します。

### 【公演鑑賞／能「安達原」】

能「安達原（あだちがはら）」は、能楽初心者の方にも鑑賞しやすい人気の高い演目です。迫力ある舞台を存分にお楽しみください。（下記「演目選定理由」も併せてご参照ください）

### 【まとめと質疑応答】

本事業の総まとめとして、参加する皆さんからの質問に答えてまいります。ワークショップや本公演をご覧いただいたなかで感じた疑問を、御遠慮なく能楽師に投げかけてください。

### 派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

出演者 19 名、スタッフ 3 名

### タイムスケジュール（標準）

【第 1 部】 能楽を楽しく学ぶ！ 紹介と演技体験（所要時間：40～45 分）

#### ◆イントロダクション「能楽を知る」

能面・装束などを用いての能楽紹介

#### ◆謡のお稽古体験

ワークショップの際に体験していただいた謡の復習

※次項にて、お囃子の演奏に合わせて謡を体験するための稽古です

#### ◆お囃子の紹介・実演デモンストレーション・エア楽器体験

能楽で演奏される笛・小鼓・大鼓・太鼓という 4 つの楽器についての解説と実演

※参加の皆さんには、能楽師の楽器演奏に合わせ、手でエア楽器体験

#### ◆能と狂言の演技体験

ワークショップでも体験した能楽の感情表現について、

能と狂言の表現方法の違いを体験的に学ぶ

(休憩 10 分)

【第 2 部】 能楽を観る！ 迫力の鑑賞体験（所要時間：40～45 分）

◆演目解説

スクリーンを使用して、これから鑑賞する物語のみどころを楽しく解説

◆公演鑑賞／能「安達原（あだちがはら）」

◆まとめと質疑応答

公演時間(約 100 分／休憩 10 分を含む) ※状況により内容変更・実施時間の変更可能

**実施校への協力依頼人員**

特にございませぬ。お手伝い頂ける場合は、一緒にご準備頂けますと幸いです。

**演目解説**

【能「安達原（あだちがはら）」上演について】

「安達原」の主人公は「道成寺」「葵上」とならんで三鬼女と呼ばれ、物語後半には「般若（はんにゃ）」という鬼の能面を使用することでも知られています。200 以上の演目がある能のなかでも屈指の人気を誇り、能を初めてご覧になる方々にも十分に楽しんでいただける内容です。「安達原」は人里離れた山の中に佇む一軒のあばら家を舞台とし、約束を破って家主（鬼）の部屋を覗いたことで物語は風雲急を告げます。そこには、見てはならないとされるものに触れてしまう人間の深層心理、そして鬼の深い怒り・悲しみが様式的な美しさを伴って見事に表現されます。

本事業に参加する小中学生の皆さんには、怖い鬼が登場する単純な物語などではなく、含蓄に富んだ能を代表する古典作品としての奥深い魅力をお伝えしたく、上演作品として選定いたしました。

【あらすじ】

陸奥（東北地方）を旅する山伏の一行。安達原というところで日が暮れたので、一軒の家に宿を求めます。

どこか寂しげな女主人は、旅のなぐさみにと糸車を回し、歌を歌って聞かせ、夜が更け寒さが増すと「決して寝室だけは見ないように」と言って薪を取りに出かけます。好奇心をおさえられなくなった供の者がそっと寝室を窺うと、中には数知れない死体が天井まで積み上げられていました。あわてて逃げ出す山伏たちを、鬼の形相に変わった女が追いかけます…。

### 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

本プログラムは一方的な講義ではなく、能楽師と参加者が楽しみながら時間を共有することを目指しております。参加する児童・生徒の反応やペースを見つつ実施いたしますので、発育に合わせて、丁寧に実施して参ります。

参加者のレベルに寄り添って対応し、一方的に進めることはなく、その場でできる内容に変更して行います。例えば児童・生徒のご状況に合わせて、立ち上がりずにその場で出来る体験など、臨機応変に対応し実施致します。

### 児童生徒とのふれあい

本公演では、第1部にて児童・生徒のみなさんに公演に参加していただきます。参加形式は稽古形式を採用し、能楽師とともに能楽を体験するスタイルを進めてまいります。

#### 【謡のお稽古体験】

特有のリズムをもった日本古来の言葉の美しさをお伝えします。まずは能楽師が見本を示し、それを真似るように、全員で声に出して謡を稽古していただきます。

#### 【エア楽器体験】

笛・小鼓・大鼓・太鼓の4つの和楽器は、能楽の演出に欠かすことのできない存在です。まずはその音色や音の出し方を能楽師が解説し、参加者のみなさんには手元で使い方を真似るスタイルで、演奏方法をいっしょに疑似体験していただきます。

#### 【能と狂言の演技体験】

日本古来の喜怒哀楽の表現を体験していただきます。能と狂言という2つの古典芸能の表現方法の違い、能楽独自の身体の使い方を、手本をご覧いただきながら学んでください。会場となる体育館空間を最大限に利用し、楽しくお稽古していきたいと考えております。

※状況により体験内容の変更可能